



第17期総会（併設・腎臓病勉強会）開催

阪大腎友会は平成27年11月21日に第17期総会を開催しました。

当会は平成11年発足以来16年を経過し、現在会費納入会員が22名となり会の運営が難しい状況にきています。会の存続を含め検討する時期にあると思います。

また、開催会場が直前に変更となり、「阪大医学部・附属病院管理棟」の中会議室にて開催し参加頂いた会員のみなさまにはご迷惑をお掛けしました。ご協力ありがとうございました。

協力企業様による低たんぱく関連食品の展示も従来どおり実施できました。ご協力を頂きましたのは、キッセイ薬品様・日清オイリオ様・京都麻袋様・ファンデリー様・ヘルシーフード様 以上です。



阪大腎友会 第17期総会

《 第17期 総 会 》

第16期活動報告・会計報告が承認されました。

（別紙：第16期活動報告・会計報告 参照）

※10月1日付猪阪善隆先生の教授就任を紹介しました。

《 腎 臓 病 勉 強 会 》

【 CDK に対する低たんぱく食事療法 】 腎臓内科 科長 猪阪善隆先生

- ①糸球体と尿細管のはたらき ②糸球体濾過量が低下すると食事療法や薬が必要 ③塩分制限は一番重要 高血圧の原因は腎臓 ④CDK 患者は塩分に関する感覚が鈍い ⑤塩分制限により塩分に関する感覚が改善する ⑥蓄尿データから塩分を計算する ⑦腎不全に対する食事療法・・・制限せず過剰→タンパク過剰→尿毒素が溜まりやすい→タンパク制限 ⑧リンが溜まりやすい（CDK 患者における血清リンの死亡リスクは高い）→リン摂取量はタンパク摂取量に比例→タンパク制限

※詳細は資料を参考にしてください。

【 できることからやってみましょう腎臓病食 】 栄養管理室 室長 長井直子先生

一、腎臓の働き・・・尿をつくる（老廃物の排泄・水分や電解質の調整）ホルモンの調整（血圧の調整・造血ホルモンの産生・ビタミンDの活性化）二、腎臓の働きが低下すると、老廃物が溜まり・水分電解質調整できず・血圧調整できず高血圧に・造血ホルモンできず貧血に・ビタミンD活性化できず骨が弱くなる。【腎臓病の食事療法】①CDKステージによる食事療法基準 ②病期に応じた食事療法（食事療法1）塩分を控える・減塩（食事療法2）たんぱく質をとりすぎない（食事療法3）適切なエネルギー摂取（食事療法4）カリウムを控える（食事療法5）リンを控える（食事療法6）水分摂取量の調節 【食事療法の実践方法】※詳細は資料を参考にしてください。